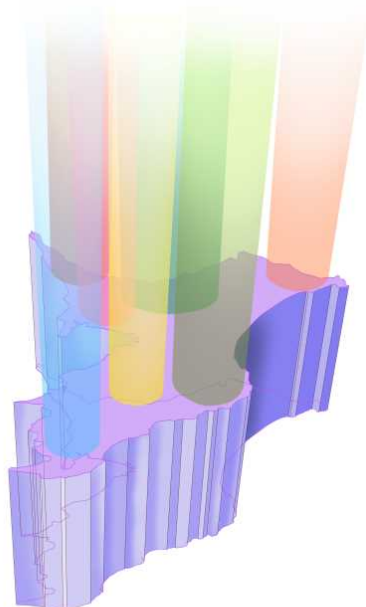


県立学校改革推進プランに係る評価

(平成29年度再編実施分)



令和2年10月

教育政策課

— 目 次 —

I 評価の概要

1 評価の目的	1
2 評価の進め方	1
3 評価対象（平成29年度実施分）	2
4 評価区分とスケジュール	3

II 評価

1 普通科及び普通系専門学科・コース	
（1）国際に関するコースの設置	5
（2）理数に関する学科の設置	7
2 職業系専門学科・コース	
（1）福祉教育の充実	9
3 定時制・通信制高校の配置	
（1）通信制高校の設置（通信制協力校）	11
4 平成29年度再編実施分プラン評価の総括	13

III 資料

1 普通科及び普通系専門学科・コース	
（1）国際に関するコースの設置	15
（2）理数に関する学科の設置	17
2 職業系専門学科・コース	
（1）福祉教育の充実	19
3 定時制・通信制高校の配置	
（1）通信制高校の設置（通信制協力校）	21
4 外部・関係団体の意見	23
5 基礎データ	29

県立学校改革推進プランに係る評価（平成29年度再編実施分）

I 評価の概要

1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という）の実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

2 評価の進め方

（1）調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

定時制・通信制高校においては、4年が経過するまでの卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行います。

（2）アンケート調査、聴き取り調査等の実施

ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。

コース設置の場合にはコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。

イ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。

ウ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

（3）評価の作成

ア 調査結果は「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「全日制高校の配置」「定時制・通信制高校の配置」の再編種別に大別・整理して、取りまとめを行います。

イ 取りまとめた調査結果について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部・関係団体から意見聴取を実施します。

ウ 意見聴取等を踏まえ、再編種別ごとに「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。

（4）評価の公表

評価結果については、「教育委員会の点検・評価」及び、ホームページでとりまとめた内容を公表します。

3 評価対象（平成 29 年度再編実施分）

（1）普通科及び普通系専門学科・コース

ア 国際に関するコースの設置（匠瑳高校）

イ 理数に関する学科の設置（木更津高校）

（2）職業系専門学科・コース

福祉教育の充実（佐倉西高校）

（3）定時制・通信制高校の配置

通信制高校の設置（通信制協力校）（館山総合高校）

4 評価区分とスケジュール

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	全日制高校の配置	定時制・通信制高校の配置
H24	H26				泉 ・地域連携アクティブスクール 天羽 ・地域連携アクティブスクール		
H25	H27	柏井 ・国際コミュニケーションコース	松戸向陽 ・福祉教育拠点校 ・福祉コース				
H26	H28	千葉女子 ・教員基礎コース 東葛飾 ・医歯薬コース 佐倉 ・理数科 長狭 ・医療・福祉コース ＜医療コース＞ 安房 ・教員基礎コース	千葉工業 ・工業教育拠点校 ・コンソーシアム 長狭 ・医療・福祉コース ＜福祉コース＞		銚子 ・防災の学び 鶴舞桜が丘 ・緑地管理コース		
H27	H29	成田国際 ・グローバルスクール	茂原樟陽 ・農業教育拠点校 小見川 ・福祉コース		船橋古和釜 ・地域連携アクティブスクール 流山北 ・地域連携アクティブスクール 銚子商業 ・海洋環境コース 館山総合 ・観光の学び ・栽培環境コース	大原 岬 勝浦若潮 ・統合	
H28	H30	松尾 ・グローバル化に関する学び	千葉工業 ・理数工学科	小金 ・総合学科	東葛飾 ・中高一貫教育校 成東 ・単位制		
H29	R1 通信 R1 R2	匝瑳 ・国際に関するコース 木更津 ・理数科	佐倉西 ・福祉コース				館山総合 ・通信制協力校

※網掛けが、今年度評価対象校

再編 年度	評価 年度	普通科及び 普通系専門学科 ・コース	職業系専門 学科・コース	総合学科	社会のニーズに 対応した教育	全日制高校 の配置	定時制・ 通信制高校 の配置
H30	R2	我孫子 ・教員基礎コース 君津 ・教員基礎コース	千葉商業 ・学科再構成 流山 ・学科再構成 成田西陵 ・学科再構成 下総 ・学科再構成 多古 ・学科再構成 旭農業 ・学科再構成 大網 ・学科再構成 茂原樟陽 ・学科再構成 君津商業 ・学科再構成 鶴舞桜が丘 ・学科再構成		安房 ・単位制		
R1	R3	市川南 ・保育基礎コース	我孫子東 ・福祉コース	幕張総合 ・総合学科	市原八幡 ・防災の学び	市原 鶴舞桜が丘 ・統合	
R2	定時 R4 R5	成田北 ・医療コース 四街道北 ・保育基礎コース	犢橋 ・福祉コース 天羽 ・工業基礎コース 姉崎 ・ものづくりコース				千葉工業 ・学科再構成 市川工業 ・学科再構成 木更津東 ・学科再構成
R3	R5					君津 上総 ・統合	
R4	定時 R6 R7						船橋 行徳 ・統合 佐倉南 ・三部制定時

II 評価

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 国際に関するコースの設置

普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多様な生徒が入学する実態を踏まえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、能力・適性に応じた教育を行うとともに、特色ある学校づくりを推進するため、地域や学校及び生徒の実態に応じて、教育課程や教育内容、指導方針の工夫・改善などを行います。

ア 第3次実施プログラムにおける国際に関するコースの設置

(ア) 対象校

- ・ 匝瑳高校 普通科

(イ) 再編の内容

- ・ グローバル化※など社会の変化に対応するため、豊かな国際感覚を養う国際教育を視野に入れ、匝瑳高校に国際に関するコースを設置します。
- ・ 匝瑳高校の英語科は、平成 29 年度入試から募集を停止します。

イ 実施状況

- ・ 2年次からコースに分かれ、中国や韓国の文化を理解するとともに、コミュニケーションが取れるように「話す力」を中心に学習し、日常会話ができることを目指しています。
- ・ コース選択者は2年次で「中国語基礎Ⅰ」、「韓国語基礎Ⅰ」の科目を選択履修し、3年次で「中国語基礎Ⅱ」、「韓国語基礎Ⅱ」の科目を選択履修しています。
- ・ 城西国際大学と連携して、年2回、中国、韓国からの留学生と日常的な会話のレッスンや互いの文化について紹介するなど、文化交流を図っています。



【城西国際大学との連携】



【留学生との授業の様子】

グローバル化※：経済活動や人々の行動が地球的規模、地球的視野で行われるようになること。

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

○近隣諸国である中国・韓国の文化や歴史を学ぶことにより、国際的な視野を広げることができ、卒業後の進路にも影響を与えています。

【参考】国際に関するコースを選択した生徒の進路状況（令和2年3月卒業）

大 学 9名	うち 国際関係大学進学者数 4名、海外大学進学者数 1名
専門学校 3名	うち 国際関係進学者数 1名
進学準備 1名	

※国際に関するコースを選択した生徒13名対象

○「日常の会話」のうち、「話す力」の向上を重点に指導してきたので、当初の目標については、十分に達成できました。

●大学に進学する生徒が72.8%を占める進学校であるため、大学受験科目以外の授業に対して、興味関心が低い傾向があります。

●国際に関するコースの選択者数が伸び悩んでいる理由の1つとして、日中関係や日韓関係など、外交関係の変化が生徒のコース選択に大きな影響を与えていることが考えられます。

【参考】コース選択者数の推移

学 年	選択履修科目	平成30年度		平成31年度	
		11名	7名	13名	9名
2 学年	中国語基礎Ⅰ	11名	7名	13名	9名
	韓国語基礎Ⅰ		4名		4名
3 学年	中国語基礎Ⅱ	/		13名	9名
	韓国語基礎Ⅱ				4名

※1年次の10月に国際理解コース・理型・文型の選択説明会を実施

《令和元年度の主な日中関係》

7月 G20大阪サミット開催 12月 第8回日中韓首脳会議

《令和元年度年の主な日韓関係》

7月 日本の経済産業省が一部半導体関連製品に対する輸出管理措置
7月 韓国政府が日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の破棄を発表

(イ) 今後の取組の方向性

異文化理解を深めるために、会話だけでなく、異文化交流を推進します。また、受検前に「国際理解コース」を知っている生徒が40%以下であることから、中学生にとってわかりやすい情報発信を心がけ、コースの魅力を周知します。

(2) 理数に関する学科の設置

理数科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 将来の国際的な科学技術系人材を育成するため、木更津高校に理数に関する学科を設置します。

ア 第2次実施プログラムにおける理数に関する学科の設置

(ア) 対象校

- ・木更津高校

(イ) 再編の内容

- ・将来の国際的な科学技術系人材を育成するため、木更津高校に理数に関する学科を設置します。

イ 実施状況

- ・第9学区唯一の理数科として、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）※₁の研究指定を受け、科学的探究力※₂とコミュニケーション能力を兼ね備え、グローバル社会で活躍できる開拓力を持った人材を育成する教育活動を推進しています。
- ・地元の研究機関や企業と連携した特色ある理数教育を展開し、木更津高校独自のカリキュラム編成をしており、学校設定教科「スーパーサイエンス」※₃では、「探究K I S A R A Z U - I」※₄・「探究K I S A R A Z U - II」※₅等の科目を設置し、研究に必要な科学的な考え方や、実験に必要な知識や技術を習得しています。
- ・夏休みや休日を利用して、大学・企業・研究所へ出向き、研修を受ける木更津SEAコラボや、丸沼・日光野外実習、つくばサイエンスツアーなど、体験的な学習を重視した取組を実施しています。



※₁ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）：理数系教育の充実を図り、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を文部科学省が指定し、支援する事業。

※₂ 科学的探究力：課題を発見し解決法を考案する力（着眼力）と、科学的な方法によって独創的・持続的に問題解決していく力（問題解決力）。

※₃ 学校設定教科「スーパーサイエンス」：科学的な考え方や研究に必要なスキルの習得を目指し、探究的な指導を実施。木更津高校が独自に設定した教科。

※₄ 「探究K I S A R A Z U - I」：理数科1年次の課題研究（1単位）。前半は少人数で物理・化学の基礎実験を行い、後半は物理・化学・生物・地学の分野に分かれてミニ課題実験を実施。

※₅ 「探究K I S A R A Z U - II」：理数科2年次の課題研究（2単位）。研究テーマを設定して実験・調査を行い、成果は学校内外での発表し、論文にまとめる。

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

○令和元年度、全国高等学校総合文化祭自然科学部門地学部門で奨励賞を受賞するなど、各種コンテストで高い評価を得ました。

【参考】各種コンテスト等での実績

年 度	コ ン テ ス ト 名	結 果
平成29年度	千葉大学主催高校生理科研究発表会 優秀賞	優秀賞
平成30年度	千葉大学主催高校生理科研究発表会	優秀賞
	第29回日本数学オリンピック	本選出場
令和元年度	全国高等学校総合文化祭自然科学部門地学部門	奨励賞
	第11回東京理科大学ぼっちゃん科学賞 研究論文コンテスト(高校部門)	入賞
	パソコン甲子園2019プログラミング部門	本選出場
	千葉大学主催高校生理科研究発表会	千葉市教育長賞
	筑波大学 科学の芽賞2019	努力賞
	第19回日本情報オリンピック	優秀賞 本選出場
	日本古生物学会第169回例会 高校生ポスター発表	奨励賞
つくばSciense Edge 2020 サイエンスアイデアコンテスト	銀賞	

○理科・数学への学習意欲が高い生徒が多く、自ら積極的に学習を進め、学力を伸ばし、理系の難関大学への進学を目指す生徒もいます。

【参考】木更津高校の進路状況(令和2年3月卒業生)

学科	大学・短大・大学校		卒業生	理数科の主な進学先
	理系	理系以外		
理数科	84.2%	15.8%	39人	北里大学、埼玉大学、筑波大学
普通科	47.4%	52.6%	277人	東京電機大学、日本大学、一橋大学

●学科内には、学習習慣が確立していない生徒がおり、学力面で差があります。上位層を更に伸ばす指導とともに、全体的なレベルアップに向けて組織的な取組が必要です。

(イ) 今後の取組の方向性

理数科の学力差に対応した指導を行うために、学年を越えた体制をつくり、理数科3学年に縦のつながりを持たせ、複数学年にわたる合同授業など、交流を推進します。

2 職業系専門学科・コース

(1) 福祉教育の充実

職業系専門学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 福祉関係への就業を目指す生徒が、福祉現場の現状を理解し、課題意識を持って学ぶとともに、福祉の職に就き、定着できるよう、行政機関・社会福祉協議会・社会福祉施設と連携する仕組みを設けます。

ア 第2次実施プログラムにおける福祉教育の充実

(ア) 対象校

- ・佐倉西高校 普通科

(イ) 再編の内容

- ・主として、高齢者の介護に必要な専門知識や技術を習得するとともに、介護従事者としての気遣いや配慮、マナーを学習し、将来福祉分野で活躍できる人材を育成します。
- ・近隣に位置する福祉施設や、福祉系大学及び学部との連携により、充実した福祉教育の展開を図ります。
- ・介護従事者等の人材育成及び職業教育の一層の充実を図る観点から、福祉に関する資格取得教育を導入します。

イ 実施状況

- ・1年次に、学校設定科目「共生社会と福祉」（2単位）を履修し、全生徒に福祉教育マインドを育成しています。
- ・2年次からコースに分かれ、将来福祉分野で活躍できる人材を育成するために、介護職員初任者研修※を教育課程に取り入れています。

【参考】福祉コース選択者数

学 年	平成29年度	平成30年度	令和元年度
2学年	設置年度	18名	19名
3学年		—	18名

- ・コース選択者は2年次で「社会福祉基礎」（2単位）、「介護福祉基礎」（2単位）の科目を履修し、医療従事者や福祉施設職員等による講演や、関係する施設の見学や実習を取り入れるなど、実践を通して福祉への理解を深めます。
- ・3年次では、「生活支援技術」（2単位）、「介護総合演習」（4単位）の科目を履修し、夏季休業中に福祉施設で3日間の介護体験実習を行い、福祉の現場を体験的に学習することで、将来の進路を主体的に考える態度を育成しています。

- ・コース選択者18名のうち27.8%（5名）が介護関係の進路に進みました。

【参考】福祉コースを選択した卒業生の進路状況（令和2年3月卒業生）

卒業生数	介護職員初任者 研修の終了者数	福祉系就職者数	福祉系進学者数	
			うち大学・短大	うち専門学校
18名	18名	3名	2名	—

ウ まとめ

(ア) 成果と課題（○成果・●課題）

○近隣の福祉施設との連携により、充実した実習や体験ができ、福祉教育に対して全ての生徒、保護者が肯定的に評価しています。



【手の模型を使った実技】



【車椅子を使った実技】

○コース選択者全員が介護職員初任者研修の資格を取得しています。

●将来を長い期間でとらえた場合、介護職を選ぶ可能性はありますが、卒業後すぐに介護職を選ぶ生徒が少ない状況にあります。なお、進路に対して、コース選択者の95%が「進路の幅が広がった」「目指す進路が決まった」など、肯定的な評価をしています。

(イ) 今後の取組の方向性

福祉教育について、高齢者介護の分野に留まらず、病院などの機関と連携し、実践的な学習の機会を設け、生徒の福祉に対する視野を広げていきます。

※介護職員初任者研修：平成25年3月末の訪問介護員養成研修2級課程（ホームヘルパー2級）の廃止を受けて、同年4月から介護職員初任者研修課程に移行された。在宅・施設で働く上で必要となる基本的な知識・技術を修得し、指示を受けて介護業務を実践できる能力を育成することを目的としている。

受講時間	講義			修了試験
	講義	実技	実習	
130時間	40時間	90時間	なし	あり

3 定時制・通信制高校の配置

(1) 通信制高校の設置（通信制協力校）

通信制高校の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 通信制高校へのニーズの高まりや多様化する生徒に対応するため、通信制協力校の拡充やインターネット等の情報通信技術（ICT※₁）を活用した学習支援、関係機関との連携による就職支援など、教育内容の一層の充実を図ります。

ア 第4次実施プログラムにおける通信制高校の設置（通信制協力校）

(ア) 対象校

- ・館山総合高校

(イ) 再編の内容

- ・千葉大宮高校で学ぶ生徒の学習環境をより一層向上させるため、千葉大宮高校から遠距離に居住している生徒にとって、通学時間や交通費の面で負担軽減につながる有益な制度を、館山総合高校において実施します。
- ・面接指導（スクーリング）では、デジタル教材を活用するなど、生徒の学習上の利便性向上に努めます。

イ 実施状況

- ・館山総合高校と銚子商業高校において、千葉大宮高校の定期試験を実施してきましたが、館山総合高校において、平成29年度から新たに面接指導（スクーリング）を実施しています。
- ・令和元年度は、千葉大宮高校の10名（1年生4名、2年生4名、3年生2名）の生徒が、通信制協力校制度※₂を利用しました。

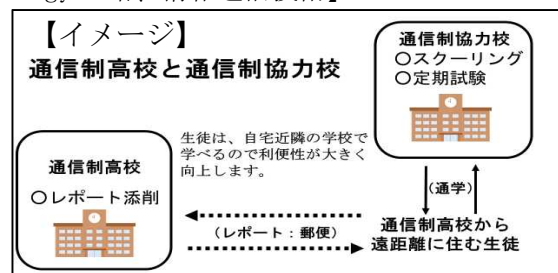
【参考】通信制協力校制度を利用している生徒の居住市町村

学 年	1 学年	2 学年	3 学年
市町村名	館 山 市 3 名 鴨 川 市 1 名	館 山 市 2 名 南 房 総 市 2 名	勝 浦 市 1 名 君 津 市 1 名

- ・デジタル教材を活用し、生徒の実態に即した教科指導を展開することで、レポート学習では扱えない学習内容を指導しています。

※₁ ICT【Information and Communication Technology の略、情報通信技術】：パーソナルコンピュータやタブレット端末、スマートフォンなどを使った情報処理や通信技術の総称。

※₂ 通信制協力校制度：通信制高校で学ぶ生徒の学習の利便性を図るための制度。通信制高校から遠距離にある高校を通信制協力校に指定し、生徒がそこでスクーリングや定期試験を受けられるもの。



ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

○生徒の通学に対する「負担軽減」に加え、少人数による個に応じたきめ細かな指導が行われていることから、生徒、保護者の満足度が高い結果となっています。

○映像教材を活用した面接指導やNHK高校通信講座の視聴など、デジタル教材を活用し、レポート学習では扱えない学習内容を補充することにより、生徒の学習内容に対する理解が深まっています。



●今後の通信教育に対するニーズを踏まえ、ICTを中心とした学習環境について、更なる研究が必要です。

(イ) 今後の取組の方向性

通信制を希望する生徒が年々増えていることから、地域バランスを考慮し、通信制協力校の拡充を検討していきます。

【参考】通信制の生徒数の変化 【出典】学校基本調査より (人)

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全 国	181,031	182,515	186,502	197,779
千葉大宮高校	1,072	1,094	1,045	1,036
千葉県私立	5,771	6,038	6,294	6,795

【参考】千葉大宮高校の在学生の学区別分布状況(令和元年5月1日現在)(人)

学区	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9	県外	小計	合計	
1年	男子	41	32	3	23	6	12	8	5	11	1	142	262
	女子	37	23	5	18	4	12	2	4	14	1	120	
2年	男子	42	39	5	22	2	8	6	5	11	1	141	330
	女子	51	43	9	26	13	9	10	3	23	2	189	
3年	男子	26	38	8	15	4	10	4	1	11	—	117	232
	女子	43	21	6	15	4	6	5	—	15	—	115	
4年	男子	27	24	7	13	4	7	2	1	9	2	96	212
	女子	27	27	8	15	3	9	8	—	16	3	116	
合計	294	247	51	147	40	73	45	19	110	10		1,036	

4 平成29年度再編実施分プラン評価の総括

(1) 評価を終えて

県教育委員会では、プランの実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的とし、評価を実施しました。

平成29年度に再編を実施した4校は、プランにある「改革の方向性」に沿い、「基本コンセプト（目指すべき県立高等学校像）」の実現に向け、一定の成果を上げており、魅力発信に向けた広報の改善など課題はあるものの、「魅力ある学校づくり」という目的を、概ね達成できたと捉えました。



(2) 「学び」の一層の工夫

生徒や保護者を対象としたアンケート結果を見ると、再編実施校ごとに評価の特徴があるものの、「資格が取れたことによって、進路の幅が広がった。」(佐倉西生徒)「他校ではなかなか経験の出来ない、大学や企業で学ぶことの出来る機会があった。」(匝瑳生徒)等、学びや制度等に対する肯定的な回答があり、生徒や保護者の多様な教育的ニーズにある程度応えられていると考えられます。

一方で、木更津高校の理数科では、大学受験の科目について、「カリキュラムをもう少しどうにかして欲しい。少し大学受験向けではない。」などの意見がありました。

理数科は、学習指導要領によって3年次に履修できる理科の科目と時数に制限があるため、全ての生徒のニーズに対応することが難しい状況となっています。そのような中、木更津高校の理数科では、課題研究を取り入れたり、教科書では扱えない、専門的で高度な学習内容を取り入れたり、より専門性の高い授業を展開するように、工夫しています。

また授業を通して、理科的・数学的なものの見方や考え方、「仮説・検証・考察・発表」といった論理的な考え方について、しっかりと学んでいます。そのため生徒からは、「課題研究を通して、目的や方法を自分たちで考えるという、今までやらなかったことまで経験することができた。」などの感想が見られました。

進路状況では、理数科から理数系大学への進学率が84.2%と、高い割合となっています。また、理数科で学んだことを生かし、文系の大学へ進学するなど、幅広い進路選択をする姿が見られました。

(3) 効果的な魅力の広報・周知

近隣中学校へのアンケートの結果を見ると、再編実施校の取組について、近隣の中学校にあまり理解が進んでいないと考えられます。

再編実施校では、各学校のホームページで取組を紹介したり、学校説明会等で学びや学科の説明をしたりと、様々な形で広報を行っています。

また、県教育委員会でも、県のホームページの「魅力発見！県立学校」等で、再編実施



【県教育委員会HP「魅力発見！県立学校」】

校の取組を紹介したり、中学校へ直接訪問し、制度について説明をしたりしています。

しかし、アンケートからは十分とは言えないと考えられ、今後も近隣小・中学校への出前授業の実施や、地域行事等への参加等を通して、学習の成果の発表や学びのPR活動を行うことで、再編実施校の取組について、もっと興味を持ってもらう。そして、中学生が目的意識を持ち、自分の将来に生かせる学校選択につながるよう、更に効果的な情報発信に努めてまいります。

(4) 外部・関係団体の意見から

外部・関係団体からは、「対象校だけでなく、プランそのものが時代に即している。」「学ぶ場の選択肢が多いことは、生徒にとっても良いことである。」など、高い評価をいただきました。

一方で、「魅力」とは、誰にとっての魅力か。時代を見つめ、「こうしたい。」という思いを持って再編をして欲しい。」との意見もいただきました。

引き続き、各校が特色を強く打ち出し、それを生徒が選択できるようにすることが大切です。そのためにも、県教育委員会として、より積極的な支援をまいります。

また、「郡部の定員割れを何とかしないと、学校が生き残っていけない。」「これからは、生徒が主体的に学ぶ場が必要である。そう考えると、総合学科が良い。」「地域の産業を生かした学びがあれば、地域の発展や、人材の育成につながる。」など、これからの県立学校の在り方についても、意見をいただきました。

(5) 終わりに

千葉県総合企画部統計課の統計によると、今後更に少子化が進み、15歳の人口が、令和14年には現在より6,000人も少なくなると予測されています。

公立高校を取り巻く環境は、ますます厳しくなることが推測されます。しかし、次代の本県を担う人材の育成のために、引き続き、魅力ある県立学校づくりを推進していきます。

【参考】第2表年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口—県・市区町村・11地域（令和元年度）（人）

R2 現在	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
総数	53,421	51,293	52,756	53,921	53,621	52,469	52,029	51,111	50,115	50,019	50,062	49,593	47,598

（出典：千葉県総合企画部統計課）

再編実施校では、既に「授業内容の工夫・改善」「職員の指導力の向上」「地域との連携の拡充」「デジタル教材の活用」「広報活動の見直し」など、更なる魅力ある高等学校づくりに向け、検討、準備、実施をしています。

魅力ある学校づくりを進めるためには、学校・行政、生徒・保護者、地域の方々など学校に関わるあらゆる人々が、生徒の明るい未来のために、ともに手を携えていくことが必要です。今後も魅力ある学校づくりに対して、御支援・御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

県教育委員会としては、次期高校改革推進プランの策定に向け、検討を進めてまいります。

Ⅲ 資料

1 普通科及び普通系専門学科・コース

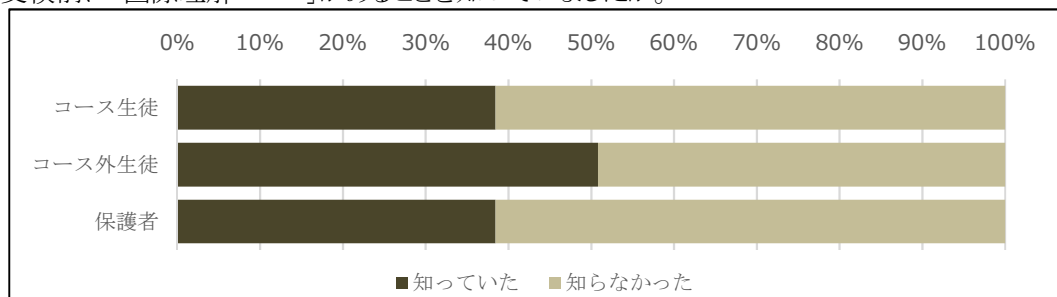
(1) 国際に関するコースの設置 (匝瑳高校)

ア 生徒及び保護者アンケート調査

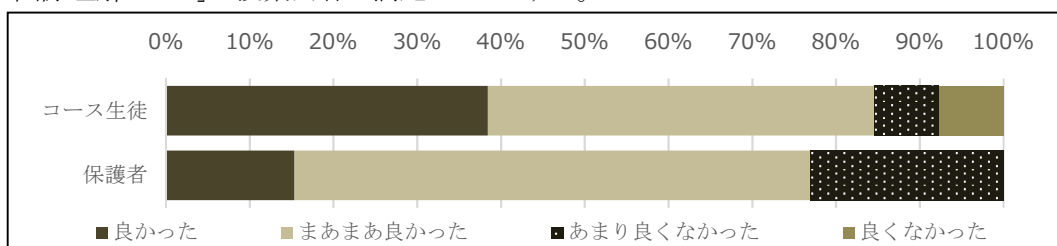
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和元年12月
- ・回答数 コース生徒13名、コース外生徒61名、コース選択者の保護者13名

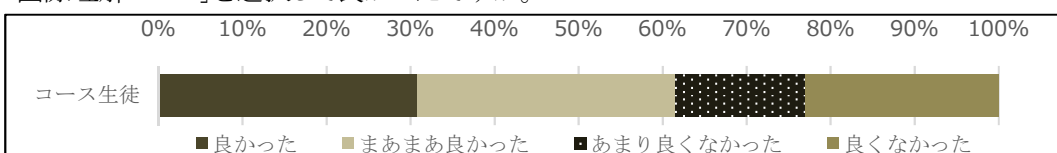
(イ) 受検前に「国際理解コース」があることを知っていましたか。



(ウ) 「国際理解コース」の授業内容に満足していますか。



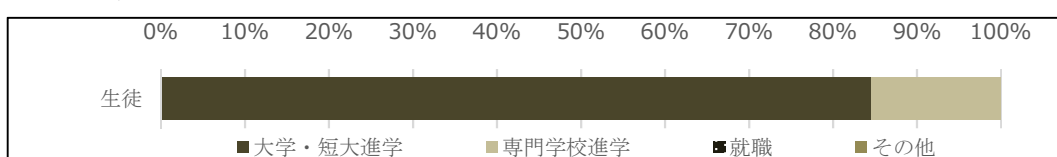
(エ) 「国際理解コース」を選択して良かったですか。



【主な理由】

- ・北京語だけでなく中国語も強化することができたからです。また、先生も熱心に指導をしてくださり、分からない所も丁寧に教えて下さったからです。
- ・新しい言語を学べたことによって、交流の幅が広がった。
- ・大学に入った時に中国語を選択するため、有利だから。
- ・思うようなことが、学べなかったから。

(オ) 「国際理解コース」の進路希望状況



【大学進学】 国際学、北京語、経済、教育など

【専門学校】 看護、国際文化理容美容専門学校

イ 当該校への聴き取り(抜粋)

(ア)「国際理解コース」の目標や特色

- ・グローバル化による社会の変化に対応し、国際的な舞台で活躍する人材を育成する。
- ・国際教育を行う県立学校が少ないことにより、地域の国際教育に対するニーズに応える。

(イ)学習への取組

- ・少人数で実施し、生徒は主体的に取り組んでいる。授業満足度も84.7%と高い評価を得ている。

(ウ)「国際理解コース」設置の成果

- ・アジアの近隣諸国である中国・韓国の文化や歴史を学ぶことにより、国際的な視野を広げることができた。
- ・「日常会話」が話せることを重点に指導してきたので、コミュニケーション力の向上は十分に達成した。

(エ)現在の課題

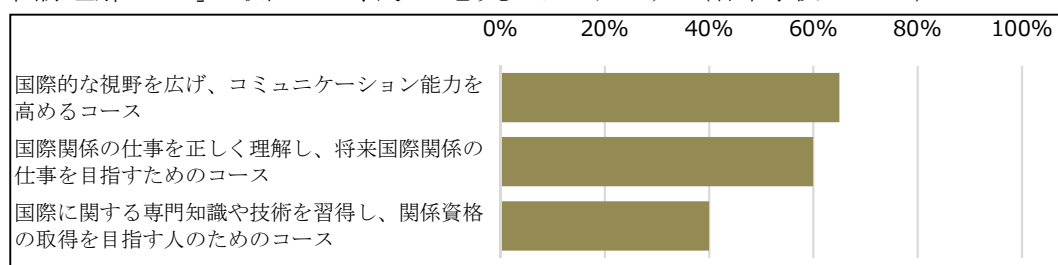
- ・進学指導重点校であるため、受験科目以外に興味関心が低い傾向がある。また、日中関係や日韓関係などの社会情勢の変化により生徒のコース選択に大きな影響がある。

(オ)近隣中学校の状況

- ・地域の進学校としての知名度は高いが、コースの設定が理解されにくく、情報発信の必要性がある。

ウ 近隣中学校(20校)へのアンケート

(ア)「国際理解コース」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・今後の国際社会に対応できる人材の育成に期待します。
- ・グローバル化が進む中で、国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を高めることができるのは良いと思います。
- ・成田空港など地域の施設、産業等と関連させた取組があるとよい。
- ・コースについての取組を近隣の中学校に、高校生がアピールする場面があると良いと思います。
- ・取組の成果や魅力をさらにアピールして欲しい。

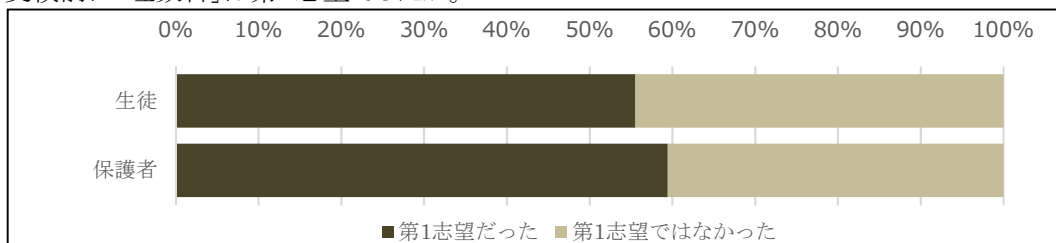
(2) 理数に関する学科の設置 (木更津高校)

ア 生徒及び保護者アンケート調査

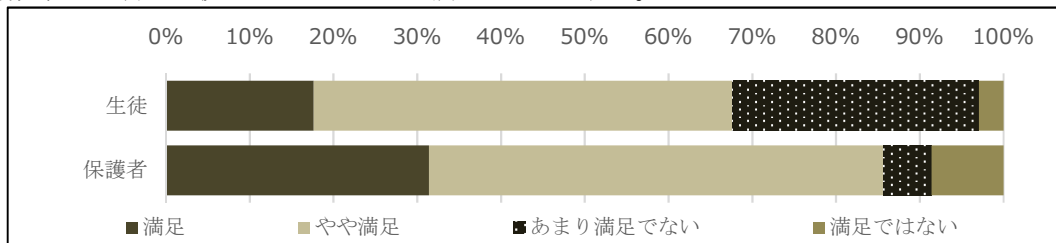
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和元年 12 月
- ・回答数 生徒 39 名、保護者 39 名

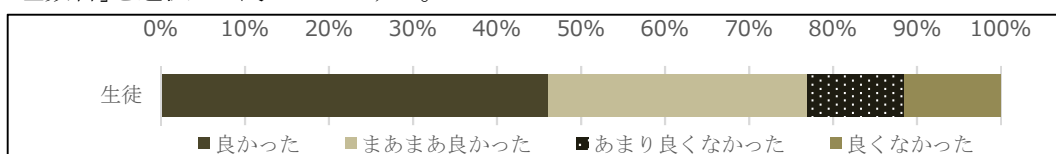
(イ) 受検前に「理数科」は第1志望でしたか。



(ウ) 数学や理科を重視したカリキュラムに満足していますか。



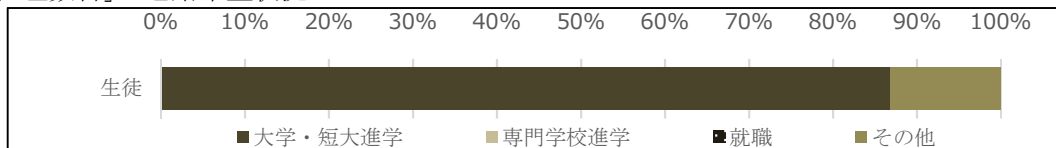
(エ) 「理数科」を選択して良かったですか。



【主な理由】

- ・課題実験を通して、目的や方法を自分たちで考えるという、今までやらなかったことまで経験することができた。
- ・課題研究や部活動で、自分の好きなように理数的な活動に取り組めたから。そのようなことをする上で、十分な能力と意欲を持った人と協力することで、いくつかの成果を出すことができたから。また、同じように科学技術に興味を持った同志に出会い、互いに刺激しあえたから。
- ・高1、2年と早い段階から、より多くの時間を理系に絡めた授業をより多く行えて、良かったです。
- ・進学を重視したカリキュラムではない。

(オ) 「理数科」の進路希望状況



【大学進学】工学系、建築、化学、看護など

【その他】無回答

イ 当該校への聴き取り(抜粋)

(ア)「理数科」の目標や特色

- ・第9学区唯一の理数科として科学的探究力とコミュニケーション能力を兼ね備え、グローバル社会で活躍できる開拓力を持った人材を育成する教育活動を推進している。
- ・夏休みや休日を利用して、大学・企業・研究所へ出向き、研修を受ける木更津SEAコラボや、丸沼・日光野外実習、つくばサイエンスツアーを実施している。

(イ)学習への取組

- ・地元の研究機関や企業と連携した特色ある理数教育を展開し、木更津高校独自のカリキュラム編成をしており、学校設定教科「スーパーサイエンス」では、研究を進めていく上で必要となる科学的な考え方や、実験を行うための基礎的なスキルを学んでいる。

(ウ)「理数科」設置の成果

- ・平成30年度の全国高等学校総合文化祭自然科学部門地学部門で、最優秀賞を受賞するなど各種コンテストで高い評価を得ている。

(エ)現在の課題

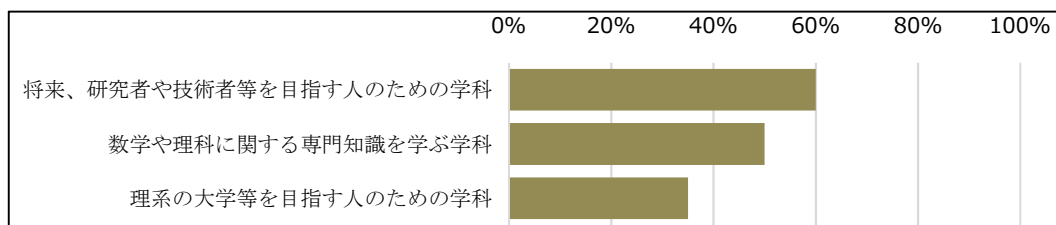
- ・学力面では、学習習慣が確立していない生徒もおり、クラス内に大きな差がある。上位層を更に伸ばす指導とともに、全体的なレベルアップに向けて組織的な取組が必要である。

(オ)近隣中学校の状況

- ・まだまだ活動内容が生徒や教師に伝わっていない部分があることから、更なる広報活動に力を入れる必要がある。

ウ 近隣中学校(20校)へのアンケート

(ア)「理数科」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・県南の進学校として、さらに発展して行って欲しい。
- ・木更津高校は本校のリーダーの多くが進学を希望しているあこがれの高校であり、今後も希望が多いと思います。
- ・大学進学率ばかりでなく、地域の活性化のために必要な人材育成に力を入れていただくとありがたいです。
- ・公開講座などで中学生に木更津高校理数科での学びを知る機会を多く設けてください。
- ・木更津高校の理数科に進学すると「他ではできない〇〇ができる」というストロングポイントを作り、それを積極的にアピールして欲しい。

2 職業系専門学科・コース

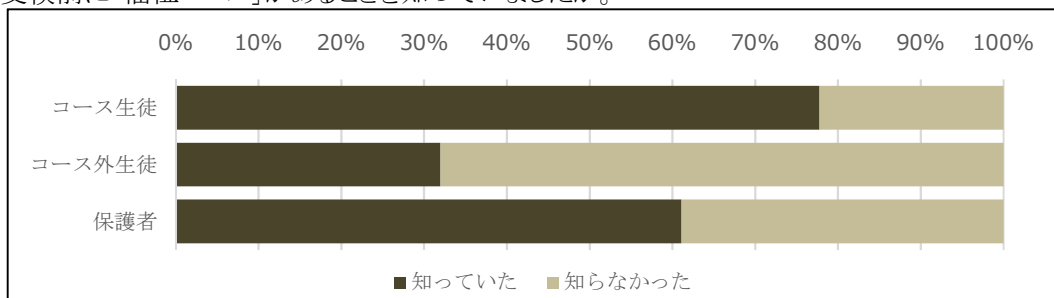
(1) 福祉教育の充実（佐倉西高校）

ア 生徒及び保護者アンケート調査

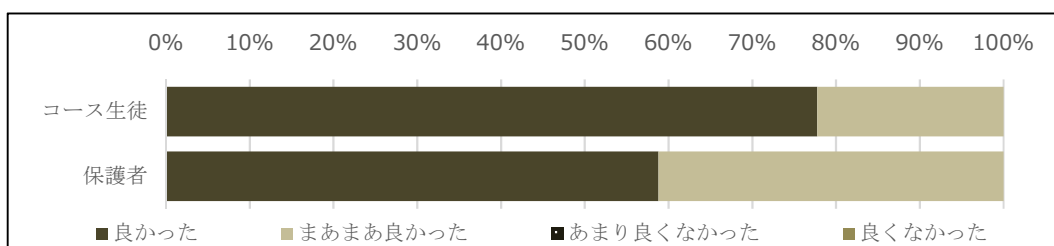
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和元年 12 月
- ・回答数 コース生徒 18 名、コース外生徒 51 名、コース選択者の保護者 18 名

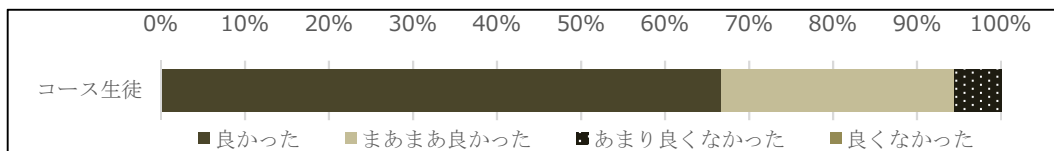
(イ) 受検前に「福祉コース」があることを知っていましたか。



(ウ) 「福祉コース」の授業内容に満足していますか。



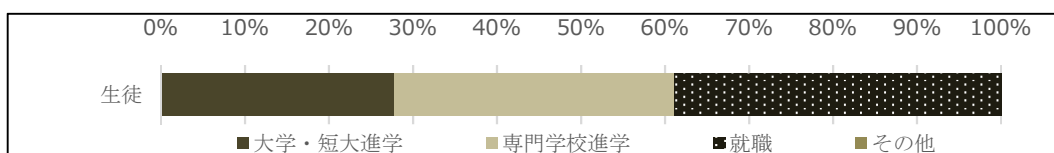
(エ) 「福祉コース」を選択して良かったですか。



【主な理由】

- ・資格が取れたことによって、進路の幅が広がった。
- ・自分の知識、技術の向上、福祉分野の理解を深められた。
- ・福祉コースの授業を通し、自分の目指す進路を決めることができた。
- ・辛かった。難しい。

(オ) 「福祉コース」の進路希望状況



- 【大学進学】福祉、保育など
- 【専門学校】看護、理学療法士など
- 【就職】介護職、事務など

イ 当該校への聴き取り(抜粋)

(ア)「福祉コース」の目標や特色

- ・地域の高校に設置された唯一の福祉コースで、地域との連携を密にした福祉教育を
実践している。

(イ)学習への取組

- ・欠席者も少なく、全員が資格取得および知識・技術の習得に向けて熱心に努力した。

(ウ)「福祉コース」設置の成果

- ・介護職員初任者研修の資格をコース選択者全員が取得することができた。

(エ)現在の課題

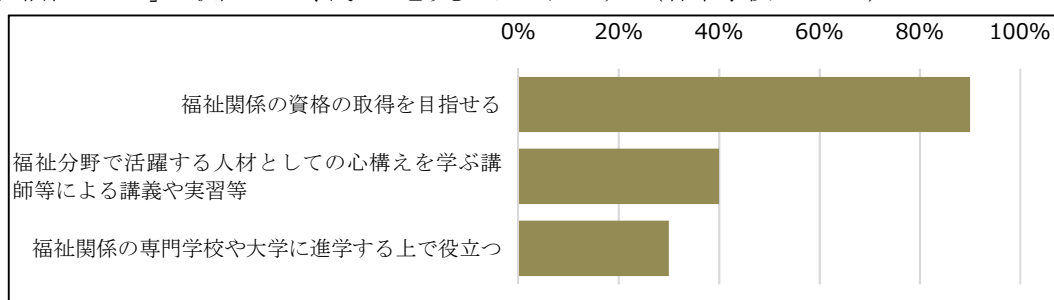
- ・福祉関係の進路に進む生徒の割合が低い。

(オ)近隣中学校の状況

- ・中学校への福祉コースの説明が不足しているようで、理解や評価が十分ではない。

ウ 近隣中学校(20校)へのアンケート

(ア)「福祉コース」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・佐倉西高校は、ボランティア活動に積極的に取り組んでいます。地域に根ざした活動がこれからも引き続き活発に展開できると良いと思います。
- ・福祉に関する知識を習得する中で、他者への気遣いや奉仕の精神を身につけ、社会人として役立つものを一つでも学んで欲しいです。
- ・超高齢化社会を迎える日本において、福祉コースは、それを担う若者の育成という点で存在意義は大きい。
- ・入学後、福祉コースに進むには、どのような要件が必要なのか。福祉コースでは、具体的にどのようなことを学び、どのような進路先で利点を得ているのか等、高校からの情報発信を積極的に行っていただけるとありがたい。

3 定時制・通信制高校の配置

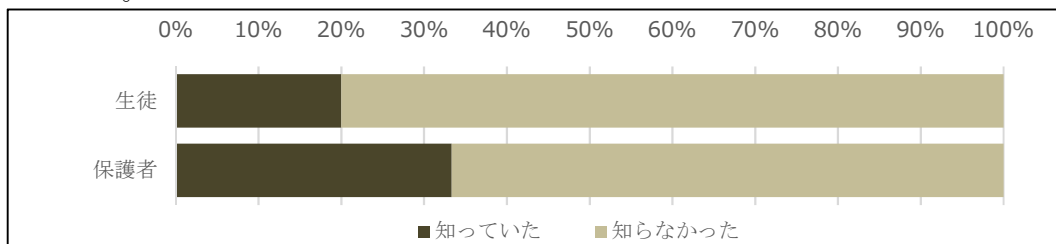
(1) 通信制高校の設置（通信制協力校）（館山総合高校）

ア 生徒及び保護者アンケート調査

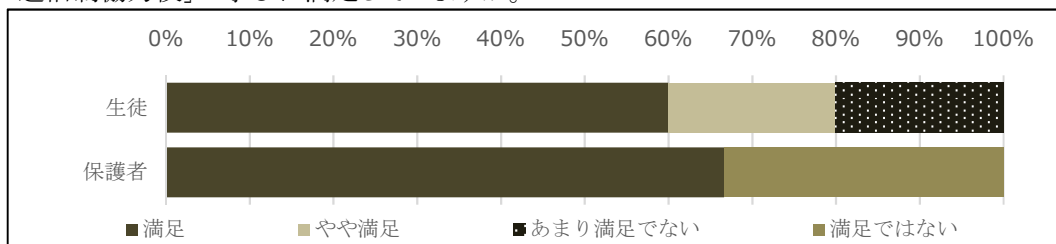
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和元年 12 月
- ・回答数 生徒 5 名（うち 2 名が 3 年生）、保護者 3 名

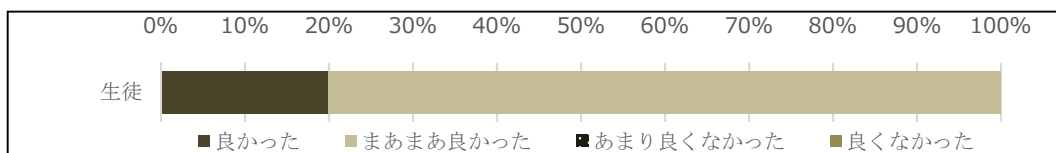
(イ) 受検前に千葉大宮高校のスクーリングを受けることができる「通信制協力校」の制度を知っていましたか。



(ウ) 「通信制協力校」の学びに満足していますか。



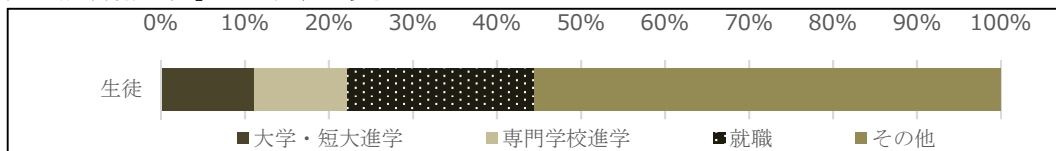
(エ) 「通信制協力校」で学んで良かったですか。



【主な理由】

- ・とても安心して学べたから。
- ・高校卒業の目標の達成。

(オ) 「通信制協力校」の進路希望状況



【大学進学】 未記入

【専門学校】 プログラミング系

【就 職】 ゴルフ場など

【そ の 他】 未定

イ 当該校への聴き取り(抜粋)

(ア)「通信制協力校」の目標や特色

- ・実施校から遠方に居住する生徒の近隣の高校を協力校として、通学の負担を軽減する。
- ・少人数で学ぶことができる。

(イ)学習への取組

- ・NHKの高校通信講座の視聴、1人1台のPC使用、映像教材を活用した面接指導など、デジタル教材を活用した面接指導を展開している。
- ・生徒の中には実施校（千葉大宮高校）まで来て、マルチチャレンジサポート（資格取得講習）に取り組んだ者もいる。

(ウ)「通信制協力校」設置の成果

- ・地域に在住する生徒の（スクーリングへの出席に伴う）負担軽減には有効である。
- ・少人数のため、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができ、生徒の満足度も高い。

(エ)現在の課題

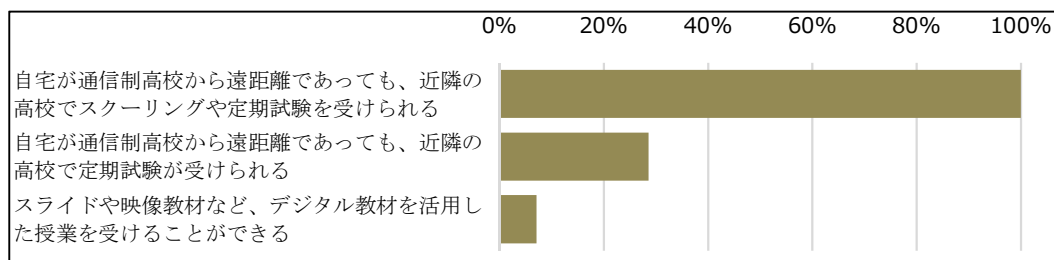
- ・将来の通信教育を考えた場合、学校以外の場所でも学びができるような学習環境について、今後研究していくことが必要である。
- ・遠方の生徒にとっては良い制度であるが、実施校が手薄になるのは改善の余地がある。

(オ)近隣中学校の状況

- ・子どもたちの進路選択の幅が広がった。

ウ 近隣中学校（14校）へのアンケート

(ア)「通信制協力校」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ)中学校からの意見(抜粋)

- ・入学後も登校ができているかどうかの連絡をいただければありがたいです。
- ・本来なら学校は集団生活のスキルも学ぶ場所と考えるが、近年、多様な事情をかかえる子ども達が増えている状況を考えると、知識（学力）を身につけることだけでも大切なことかと考える。通信制協力校の存在は、今後、さらに重要になってくるかと思う。
- ・通信制協力校で学ぶことのよさをもっと前面に出していただけたらと思います。取得できる資格や就職等、通学距離以外のよさをもっとアピールしていただけたらと思います。
- ・スクーリングの登校可能曜日を複数としたい。
- ・日本語教育コースが今後必要になると考える。

4 外部・関係団体の意見

(1) 意見聴取先

ア 全般的に聴取した団体

- 千葉県高等学校長協会
- 千葉県中学校長会
- 館山市教育委員会
- 木更津市教育委員会
- 佐倉市教育委員会
- 匝瑳市教育委員会

イ 学科、コース等について聴取した団体

- 城西国際大学 千葉東金キャンパス（国際に関するコースの設置）
- 匝瑳市教育委員会（国際に関するコースの設置）
- 公益財団法人 かずさDNA研究所（理数に関する学科の設置）
- お茶の水女子大学（理数に関する学科の設置）
- 医療法人社団双和会 介護老人保健施設 エクセレントケア志津（福祉教育の充実）
- 社会福祉法人自洲会 特別養護老人ホーム志津ユウカリ苑（福祉教育の充実）
- 館山市教育委員会 教育支援センター（通信制高校の設置（通信制協力校））
- 南房総市教育委員会 教育相談センター（通信制高校の設置（通信制協力校））
- 鴨川市教育委員会 教育支援センター（通信制高校の設置（通信制協力校））

(2) 主な意見

ア 全体を通しての意見

- ・再編して2、3年では、学校は創れない。何年もやって、実績を積み、地域に根付いてからが、評価ではないか。
- ・高校のキャリア教育や進路指導について、具体的に説明して欲しい。例えば、「うちの学校は、こんな学びがある。この学びを通して、こういう資格がとれる。その学びを生かして、こんな進路がある。」があると、中学生もイメージしやすい。以前あった学校説明会で、高校生活をどのように送ってきたのか、具体的に説明してくれる生徒がいた。高校見学や体験入学は多いが、高校生が話をしてくれる場面があると良いのではないか。
- ・進路説明会等で、高校でどんな学びをやっているのか、説明を受ける。その中で、企業の声を入れてみてはどうか。例えば、「これから中国語も必要である。プレゼンは全て英語である。だから、多様な言語を学ばなくてはいけない。」と。そうすれば、学ぶ意義も出てくるのではないか。また、直接生徒や担任にPRをした方が良い。生徒や保護者まで広がっていく。毎年中学校へPRすることで、情報が積み重なり、中学校の卒業生が語ってくれるようになれば、高校としては最高である。
- ・プランでコースなどを設置しても、実際にカリキュラムを考えたり、授業をしたりするのは、学校の先生方である。負担も大きいと思う。
- ・中学3年生の段階で進路を決めることは、難しいのではないか。
- ・「この学びがあるから、この高校へ行きたい。」と、地域に根付くのはこれからだと思う。

- ・中学校へのPRをどうしていくか。中学生に行きたいと思わせることが大切。福祉コース、理数科は必要だと思うが、国際コースの中国語、韓国語は、中学生にとって魅力があるものか。PRの仕方が難しい。
- ・中学校の段階で、進路が決まっている人にとっては、将来のことを考えて、早い段階から専門的な学習ができて良いと思う。逆に、進路が決まっていない人にとっては、様々な学びがあり、学んでいく中で進路選択ができ、良いと思う。館山総合の通信制は、学校へ通えない生徒にとっては、とても良い制度だと思う。時代に合っている。

イ 国際に関するコースの設置（匝瑳高校）についての意見

- ・コース選択者がどうしても少ない。
- ・中国、韓国について学んでいるが、プランには「グローバル化など社会の変化に対応するため」とある。アジアに特化している理由は何か。言語と言ってもたくさんあるので、プランにある「グローバル化」にリンクできると良い。
- ・英語科の代わりに、国際理解コースを入れたわけではない。どうして中国語と韓国語を学ぶのか。意味づけが必要である。今後、学校として、中国語と韓国語を学ぶ意味を深めていく必要がある。
- ・中学生が匝瑳高校を選択する時に、どこまで国際理解コースの魅力を感じているか。受検前に国際理解コースを知っている生徒の割合が40%以下とある。そもそも国際理解コースについて、「知らない」というのは辛い。学びを通して、進路について大学とつながっているなど、PRができていると良い。そうなれば、希望者も増えてくるのではないか。
- ・国際コースにおける学びが中学生の進路選択上でのポイントになるのであればよい。地域・保護者・中学生の目に見える職業に直結する形が理想である。
- ・高校卒業後、国際の学びが進学先で生かされ、その先の職業へのつながりが出てくると人気が出てくるはずである。
- ・小学校に英語の学びが導入された今のタイミングこそ、中高へ学びが継承される。小中高の学びの接続を魅力ある学校づくりに生かして欲しい。
- ・コース選択者数が多い、少ないではなく、高校の段階で色々な言語を学べることは、良いことである。特に、隣の国の中国語と韓国語は身近な言語である。留学生との交流や会話は、進学に直結しなくても、良い機会となると思う。国際コースの魅力を、積極的に発信して欲しい。
- ・「話す力」を中心にしている。学習指導要領も改定され、書くことよりも読む、話すことが求められている。視点の当て方が良い。
- ・中学生にとって、「グローバル化」は理解できているが、実際に匝瑳高校の「国際理解コース」で、どのような学びをするのか、中学生には抽象的で、イメージがわからないのではないか。
- ・話す力が、将来どう生きていくのか、先を見据えたものであって欲しい。また、国際コースとあるのだから、会話だけではなく、国際関係について、政治的な問題についても、どこまで学んでいるのか、また、どこまで学ばせるのか。
- ・高校生と留学生との交流会については、教員のコーディネート能力と事前準備が肝要である。さらに、交流会終了後、学校において、参加した生徒のフォローアップの取組が欠かせない。交流会の報告会実施なども必要である。

ウ 理数に関する学科の設置（木更津高校）についての意見

- ・やはりSSH獲得は大きい。とても大きなPRとなっている。
- ・発表の場を設定することで学びが深まり、アクティブラーニングも担保できることが大変良い。各種コンテスト等で入賞するなど、成果も出ている。
- ・体験的な学習を通して、知識や技能に偏らず、良い学びになっているのではないか。
- ・プランにある理数科のねらい、「将来の国際的な科学技術系人材の育成」が、生徒には伝わっていないのではないか。理数系大学に進学するための学校で終わっているのではないか。
- ・何かに特化することによる木更津工業高等専門学校とのすみ分けが大切である。
- ・公立の教員がどこまで対応できるか。先生の負担や人員配置など、課題もあると思う。その先生が異動されたらできないは避けたい。
- ・理数科の活動を中学校へ知らせるための広報が足りない。
- ・小・中学校の理科研究協議会を木更津高校で行うなど、小・中学校の理数教育の拠点校になって欲しい。
- ・各自の研究から発表まで、短い時間の中で生徒の主体的な取組を重視しているところが良い。
- ・県南エリアで理数に興味がある生徒が集まるような、地域に根ざした理数科として、県南エリアの理数系教育を盛り上げて欲しい。
- ・かずさアカデミアパークという研究機関と高度な連携を図ることができる点に強みがあり、進路を含め高いステージへの学びの動機付けになるとと思われる。

エ 福祉教育の充実（佐倉西高校）についての意見

- ・介護職員初任者研修という資格しか取れない。コースの難しさである。そのため、進路実績につながらないのではないか。「良い経験にはなったが、お給料には反映されない。」となってしまう。
- ・福祉教育を通して、人間的な人格の育成をすることは、価値がある。
- ・卒業後すぐに、福祉に関する職に就かなくても、福祉に関する意識は育っている。長いスパンで考えて、生涯キャリアに結びつく。
- ・受検前に80%弱の生徒が、福祉コースがあることを知っていたことは良い事である。地域に根差した学校となっている。
- ・介護関係の進路の割合が低い、「佐倉西で福祉について学んでみて、進路選択が広がった。」と、マイナス評価と考えない方が良い。
- ・介護職員初任者研修を高校在学中に取得することができる点が魅力である。
- ・福祉は、これからの社会で、ニーズのある分野である。今後、福祉コースの設置は、有効になると思う。
- ・市は、不登校がどんどん増えている。学校だけでは対応できない状態である。今後は、福祉の人たちの協力が必要となっている。そのためにも、福祉人材の育成は大切である。
- ・このままコース選択者が20名で維持できると良い。
- ・どの生徒も真面目で、オリエンテーションでは、メモをしっかりとるなど、一生懸命取り組んでいる。実習後の感想は、前向きなものが多かった。
- ・学校の施設も充実しており、学ぶ環境がきちんと整備されている。
- ・1人でも多くの生徒に、介護職に就いて欲しい。

- ・コースで福祉について学び、「やっぱりできない。」と感じて、やめてしまっても良いと思う。高校生の段階で、「将来この職業に就く」というのは、厳しいのではないか。
- ・進路状況を見ると、介護関係に進んだ割合が27.8%である。低いので、学校も進路指導を頑張ってもらいたい。また私達も、生徒に介護職の魅力をもっと伝えられていないようであり、改善の余地がある。
- ・福祉を目指している生徒が多い。その中で、優しい子や積極的な子、大人しい子もいた。最終的によくまとまり、みんなよくやっていた。
- ・市内の各施設は、福祉コースの講師などをやれるのであれば、やらせて欲しいと思っている。希望があれば、協力したい。
- ・先生方は、非常に協力的である。備品等、相談にのってくれるし、すぐに対応してくれる。困ったことは一度もない。より良い連携ができていますので、このまま続けていきたい。
- ・生徒には、もっと施設に来て、老人と関わったり、職員と関わったりして欲しい。実習は、夏休みに3日間。実際に色々な人と関わる中で、感じて欲しいことがたくさんある。時間等があれば、ぜひ施設に来て欲しい。職員はもっと福祉の楽しさを伝えたいと思っている。
- ・もしかしたら、中学生にとって「介護」というものが、漠然としているのかもしれない。小・中学校でも職場体験などで介護体験ができれば良いと思う。小学生で導入、中学校で発展、高校で仕上げというように、つながることで介護について、深まりができると思う。
- ・介護人材が不足しているのは事実である。でも、新しく福祉に関する学びができる学校を増やしたところで、生徒が来るのか。例えば、佐倉西の定員は20人だが、新しくコースをつくり、そちらに10人流れ、佐倉西が10人になってしまったら、意味がないと思う。

オ 通信制高校の設置（通信制協力校）（館山総合高校）についての意見

- ・人数は少ないが、ニーズはある。続ける必要はある。
- ・通信制協力校の設置について、不登校生徒の学びに対する心理的な距離を縮める効果が期待できる。
- ・スクーリングの負担が減ることは良いことである。もともと通信制を選ぶ生徒は、何かを抱えている生徒が多い。その中で、通いやすいのはありがたい。
- ・学ぶ場の選択肢が多いことは、生徒にとっても良いことである。高校に入学し、新しい気持ちで頑張る生徒が出てくる。
- ・大賛成な制度である。通信制のニーズはある。中学時代に不登校で、学校に行けない生徒にとって、高校生になって、行く場所があることは、とても良い事である。
- ・通信制については、生徒の主体性・主体力に及ぶところがある。保護者も分かっている。スクーリング・レポートが、生徒だけでやれるか心配している。
- ・通信制協力校には、存在感を示して欲しい。中学校へのコマースタッフが乏しい。現場の教員は協力校のことを知らない。
- ・定時制の併修もそうだが、3年で卒業可能としているのはよい。(中学時代に不登校であった生徒は)「高校卒業」が大きな目標であるが、4年では子どものモチベーションが保ちづらい。
- ・中学卒業後、高校に籍を置いておくことは大切で、居場所があることはよい。通信制であっても、地元の公立高校に進学してくれれば、状況が把握しやすい。
- ・この制度は1年次からでないと利用できないようになっている。年度の途中からでも通信制協力校に入学できるようにして欲しい。

- ・協力校の生徒は担任と会わないままである。コーディネーター（子どもが入学してから卒業するまでの間に対応するための）の配置ができないか。
- ・質問できるツール（例えばタブレットのような）が千葉大宮にあると良い。

カ 県立学校の取組についての意見

- ・千葉県は、8割が普通科である。似たような努力をしている学校が多く、あれもこれもやっている。そのため、どの学校がどんな特色があるのか、分かりづらい。進学校はリーダー育成を、職業系学校は進路に特化するなど、メリハリを持たせたい。そして、子ども達の選択肢を広げたい。中堅校の特色をどう出すかが課題である。
- ・例えば、天羽と姉崎で工業の学びが始まった。工業高校と何が違うのか、すみ分けをしたい。普通科は、専門学科のミニ版ではいけない。
- ・県立高校は、「うちの学校は、こういうことをやる、学べる。」とし、それを生徒が選択できるようにすることが、今後大切である。
- ・中1ギャップではないが、高1にもギャップがある。発達段階に応じた指導があると思うが、丁寧な指導をお願いしたい。まずは授業である。魅力ある授業は大切である。学校も先生も大切にしたい。
- ・普通科であっても、高校の魅力や特徴、行事や学びなど、売りを発信できれば良い。
- ・「魅力」とは何か。それが見えないから、生徒に伝わらない。勉強だけでなく、部活動など、活力を感じられない。だから定員割れするのではないか。子ども達には、私立の施設など、キラキラ感もあり、私立の方が上に感じているようだ。
- ・何かを始めようとすると、最初は必ず抵抗があるが、やれば良いものが出てくる。最悪なのは何もしないことである。

キ 県教育委員会が進めている「県立学校の魅力づくり」についての意見

- ・対象校だけでなく、プランそのものが時代に即している。これからも、時代の流れに即したプランを出して欲しい。例えば、現在第1次産業の学科の倍率が下がっている。逆に情報科、総合学科の倍率が増えている。総合学科については、今後クローズアップされる学科だと思う。
- ・郡部の定員割れを何とかしないと、学校が生き残っていけない。
- ・これからは、生徒が主体的に学ぶ場が必要である。そう考えると、総合学科が良い。
- ・普通科を希望する生徒が多く、専門学科を希望する生徒が少ないのは、中学校にも責任がある。偏差値に固執し過ぎる。「15歳で進路決定は早い。」ではない。古い。色々学んでいく中で、進路を広げたい。学科だと難しいが、コースや総合学科であれば、進路について深められるし、広げることができる。
- ・「魅力」とは、誰にとっての魅力か。先を見越した再編と、当時のものを何とかする再編があると思う。県立は、時代を見つめ、「こうしたい。」という想いを持って再編をして欲しい。
- ・頑張って工業科を進めるよりも、エンジニアを育てる方が良いのではないか。
- ・単位制の総合学科が理想である。県立の強みであろう。私立では、難しい。施設はかなわないうが、教育内容で勝負ができる。
- ・中堅校に独自性を持たせれば、県立高校に魅力を持たせることができる。保護者も自分が習った頃の妄想にかられている。塾もそう。偏差値であり、普通科の進学校へ行かせる傾向が

ある。画一的な教育ではなく、自分を認め、自分を伸ばす教育が大切である。社会全体がそうなれば良い。

- ・受ける側の中学生も、高校からの情報が多く、情報を選択できない現状である。
- ・コースであれば、同じコースを増やすのではなく、種類を増やしても良い。
- ・佐倉南は、「ユネスコスクール」として、「うちの学校では、こんなことをやっている。」というのが、はっきりしていて、中学校からも分かりやすい。他の高校も、特色が分かりやすいと良い。
- ・地域に根差した学校はどうか。例えば東京ディズニーランドがある。観光科のようなもの。地域の産業を生かした学びがあれば、地域の発展や、人材の育成につながる。
- ・市教委としても、中学校の生徒がどんな学校を望んでいるのか、知りたい。
- ・いくら学校をつくっても、そこで教えることができる先生がまずはいないのではないか。千葉女子のような教員基礎コースで教員を養成することが先ではないか。
- ・己の力を社会貢献に生かしていく経験がたくさんできる学校が魅力的だと思う。
- ・進学、就職等につながるカリキュラムを各学校の、各地域の特色を持たせることで、より魅力ある学校となると思われる。
- ・アセスメントを含む工程管理、計画、プログラムの目的の明確化が高校側の最大の課題であると思われる。そして、グローバルセンスを教える側の教員の資質・能力の向上に努めて欲しい。そのための支援は惜しまない。
- ・普通科を卒業し専門学科を学びたいと思っている社会人を、専門学科で受け入れるなど、リカレント教育、あるいは社会人教育と融合できないか。
- ・人が地域をつくっているから人が育つということが大前提であり、適正規模を下回ったから単純に統合するのでは、この先上手くいかないのではないか。
- ・再編校に対して、県教育委員会は、継続的に人事、予算面で面倒をみてあげる必要がある。
- ・再編から3年目の評価後にも、例えば、再編校を集めて再編校同士で会議を行うなどアフターフォローが必要である。
- ・コロナにより、様々な課題が見え、対応をしていると思う。特にオンラインは、進めて欲しい。
- ・どの分野も人材が不足しているので、人材を育成するコースが増えることは良いことだと思う。しかし、コースを増やしても、専門的に教えることができる先生がいるのか。まず、教えることができる人がいないのではないか。
- ・県立高校で、色々な学びができると良いと思う。幕張総合のように、特徴のある学校を増やして欲しい。総合学科であれば、生徒はたくさんの授業の中から、興味・関心のあるものを選んで、学ぶことができる。
- ・安房地域の場合、県北の私立に生徒が流れている。特進コースのニーズはあるが、それ以外のコースを作っても生徒が集まらないと思う。
- ・長狭高校のように、地域の環境（例えば亀田病院）を生かしたコースがあるとよい。
- ・安房地域で多部制の定時制高校のニーズはあると思う。不登校の子どもがいきなり就職はできない。保護者も進路で悩んでいる。まずは、自分の足で学校に行く道筋をつくってあげられないか。定時制の千葉大宮方式はどうか。

5 基礎データ

(1) 志願状況

ア 国際に関するコースの設置

匠瑛高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H28	240	144 (60%)	205	1.42	96	89	0.93	
H29	240	144 (60%)	214	1.49	96	102	1.06	コース設置
H30	240	144 (60%)	228	1.58	96	103	1.07	
R1	240	144 (60%)	207	1.44	96	93	0.97	
R2	240	144 (60%)	182	1.26	96	60	0.63	

イ 理数に関する学科の設置

木更津高校（理数科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H28	-	-	-	-	-	-	-	
H29	40	30 (75%)	37	1.23	20	11	0.55	学科設置
H30	40	40 (100%)	38	0.95	15	17	1.13	
R1	40	40 (100%)	51	1.28	7	8	1.14	
R2	40	40 (100%)	50	1.25	5	6	1.20	

ウ 福祉教育の充実

佐倉西高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H28	240	144 (60%)	234	1.63	96	117	1.22	
H29	240	144 (60%)	217	1.51	96	116	1.21	コース設置
H30	200	120 (60%)	210	1.75	80	88	1.10	
R1	200	120 (60%)	193	1.61	80	95	1.19	
R2	200	120 (60%)	145	1.21	80	86	1.08	

エ 通信制高校の配置（通信制協力校）

千葉大宮高校

年度	募集定員	第1期		第2期		第3期		備考
		志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率	
H28	500	67	0.29	19	0.10	18	0.10	
H29	500	61	0.27	35	0.19	25	0.15	制度導入
H30	500	61	0.27	27	0.15	18	0.10	
R1	500	95	0.42	27	0.15	13	0.08	
R2	500	91	0.40	17	0.09	21	0.12	

【参考】通信制協力校制度利用者数

年度	1学年	2学年	3学年	合計
H29	2	—	—	2
H30	4	2	—	6
R1	4	4	2	10

(2) 令和元年度（令和2年3月卒業生）の進路状況

ア 「国際に関するコースの設置」 匝瑳高校の卒業生（コース選択者13名）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H28年度 割合※
大学・短大	9	69.2	明治大学、神田外語大学、目白大学 敬愛大学、植草学園大学	84.2
専門学校等	3	23.1	神田外語学院	13.2
就職	0	0.0		0.0
その他	1	7.7	進学準備	2.6
合計	13	100.0		100.0

※匝瑳高校英語科卒業生 38 名

イ 「理数に関する学科の設置」 木更津高校の卒業生（理数科39名）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H28年 度割合
大学・短大	19	48.7	筑波大学、埼玉大学、東京電機大学 北里大学、日本大学、一橋大学	
専門学校等	0	0.0		
就職	1	2.6	自衛隊	
その他	19	48.7	進学準備	
合計	39	100.0		

ウ 「福祉教育の充実」佐倉西高校の卒業生（コース選択者18名）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H28年度 割合
大学・短大	5	27.8	淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科 聖徳大学短期大学部保育学科	30.8%
専門学校等	6	33.3	東洋公衆衛生学院 国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護専門学校	40.2%
就職	6	33.3	社会福祉法人生活クラブ 一般財団法人日本老人福祉財団佐倉ゆうゆうの里	22.3%
その他	1	5.6	進学準備	6.7%
合計	18	100.0		100%

エ 「通信制高校の配置（通信制協力校）」千葉大宮高校の卒業生

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H28年度 割合
大学・短大	0	0.0		
専門学校等	0	0.0		
就職	1	50.0	現業を継続	
その他	1	50.0	在家庭	
合計	2	100.0		

※通信制協力校制度利用者2名

